



平成30年度 助産師職能集会報告

平成30年7月1日（日）、平成30年度 助産師職能集会・3職能合同集会在開催されました。藤谷圭子職能委員長の挨拶の後、以下の報告がありました。

1. 平成29年度山口県看護協会助産師職能委員会事業報告

①助産師職能委員会活動報告

②支部助産師職能委員会活動報告

2. 平成30年度日本看護協会通常総会報告

3. 平成30年度日本看護協会全国助産師交流集会報告

4. 平成29年度研修報告

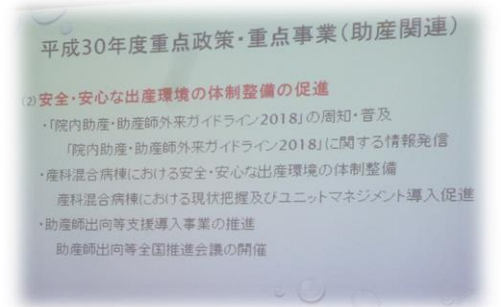
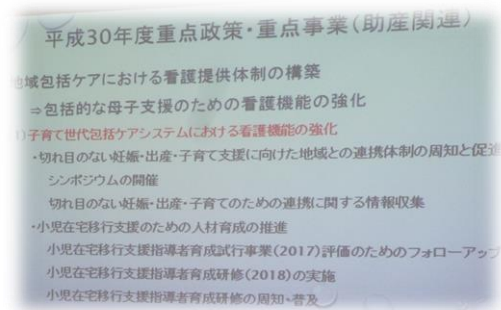
①新人助産師研修 ②中堅助産師研修

5. 平成30年度事業計画



次に、平成29年度助産師出向支援導入事業報告として、高橋智美助産師コーディネーターより、「助産師出向支援導入事業の取り組み」について説明を受けた後、実際に体験された3名より報告をして頂きました。

- ・ローリスクの妊産婦を対象としたケアを学ぶことが出来た
 - ・様々なバックグラウンドの方々と話が出来て視野が広がった
 - ・コミュニケーション能力に自信がついた
 - ・自施設の問題点が見えた
 - ・自身の課題をみつけ次のステップを考えることが出来た
 - ・助産師の働き方は様々であることが分かった
 - ・自施設では学ぶことのできない症例を学ぶことが出来た
 - ・三次医療施設での医療現場の実際を学ぶことが出来た
 - ・地域連携を知り自施設の役割について考えることが出来た
- 以上の成果があり、多くの学びが出来たようです。



しかし、以下のような課題も残っているようです。

- ・出向終了後、自施設に戻ってから通常勤務に適應するのに時間を要する場合があった
- ・出向者の金銭的負担
- ・宿泊施設 などです。

課題が解決され、助産師出向支援体制がより充実されることを期待しています。



午後からは、「生活」と保健・医療・福祉をつなぐための看護職の役割
～住み慣れた地域で暮らし続けるために～のテーマのもと、保健師・助産
師・看護師職能合同で3職能合同集会在開催されました。



公益社団法人 日本看護協会 副会長 齋藤訓子氏に、基調講演をして頂きました。「日本看護協会の使命」「看護を取り巻く医療・介護政策の動向と背景」「診療報酬・介護報酬改定」「今後の療養者支援」「地域公共社会の実現に向けた看護の機能」について新しい情報を含めて詳しくお話して頂き、医療と介護・訪問看護、地域との連携の重要性がよくわかりました。

最後に「看護を取り巻く政策情報は変わっていく為、情報を取る感度を上げて行って下さい。情報は自分から取らないと待っていても入ってきません。その手段として、看護協会ニュースを読んで下さい。また、協会のホームページ見て下さい」とお言葉を頂きました。新しい情報の収集手段として、活用していきたいと思いました。

最後に「地域包括ケアを語る」というテーマで、4人のシンポジストの発表がありました。



「認知症看護に関わる立場から」

山口赤十字病院 認知症看護認定看護師 原陽子氏

地域包括ケアシステムを担う看護職として、病院の看護師は生活者である人をどのように看護し、どのように地域と連携することが望ましいのかを考える良い機会になりました。

急性期病院で多くみられる
認知症症状に関連した高齢者の状況

1. 入院のために一時的な混乱状況にある
2. 入院あるいは治療の結果生じた混乱状況が認知症の発症につながる可能性がある
3. 入院後、言語的なコミュニケーション能力の障害によってニーズや症状が放置され、潜在的な疾患が悪化する可能性がある
4. 入院のためのストレスや混乱の結果、治療の拒否や重複抵抗などの症状がある

認知症ケアチームアドハイス内容

- 患者(家族も同様に)が今困っている事、体験していることは何か
- それは何故生じているのか
- それを解決するための方法
 - ⇒ 療養環境の調整
 - ⇒ 患者への接し方
 - ⇒ 薬剤の調整
 - ⇒ 家族ケア
 - ⇒ 退院支援

認知症の人に関わる
看護師に求められるもの

- 認知症についての知識をさらに得る
- 認知症に対する意識環境について考える
- 入院前(入所前)の状態を把握する
- 今現れている状態を詳細に把握する
- 環境の調整を行う
- 個々に合わせた対応の検討を行う
- ケアの継続を行う
- お互いの立場や役割を知り、地域と連携する



「新生児・小児看護に関わる立場から」

山口大学医学部附属病院 総合周産期母子医療センター

新生児集中ケア認定看護師 三木砂織氏

医療的ケアを必要とする児の支援体制の現状、在宅支援の難しさ、今後の地域との連携強化の必要性、今後の課題が良くわかりました。

山口県の周産期医療体制

小児在宅医療の現状

1. 対象者が少なく広域に分布
2. 病状が成人と全く異なる
3. NICUやPICU出身者が多く、医療依存度及び重症度が高い
4. 高度医療機関からの直接退院が多い
5. 小児在宅医療の患者は多くが病院主治医を持っている
病院主治医がケアマネジメントしていることが多い
→ 緊急時の安全弁 病院医は患者家族の生活や福祉制度に疎い
6. 在宅医、訪問看護師、介護士、訪問リハビリのいずれの職種も重症小児には慣れておられない
7. 体格を含めて患者の個別性が多い
8. 患者の成長・発達・療育・教育の視点が重要
9. 特別支援教育とのかわりや行政との関わりが重要

※ ケアマネージャーがいない 家族の介護負担が大きい

家族を理解するために必要な作業

人間は一人ひとりが多種である上に、そのこころが相互に関係を及ぼしあって歴史を紡いでいきた家族のありようはそれ以上に多種である
家族には家族個別の物語がある

- ・自分の家族観を知る
- ・自分のもつ家族観を見直す
- ・家族にレッテルを貼らない
- ・あるべき姿にあてはめない



「訪問看護の立場から」
 原田訪問看護センター・コミュニティプレイス生きいき
 代表 原田典子氏 少子高齢化の中、認知症ケア、小児
 ケア、終末期ケアの需要が増加している。介護と医療、病院
 と地域がどのように連携していかなければならないかを考
 える良い機会になりました。

訪問看護の内容

現状の健康維持のために、フィジカルアセスメントをし異常の
 早期発見、対処と悪化予防、診療の補助
 いろいろなリハビリテーション
 脳・摂食嚥下・言語・呼吸・身体・
 症状緩和
 マッサージ・ポジショニング・電法・傾聴・相談支援・手当・薬剤使用
 主治医との関わり代行やトータルマネジメント

特徴的な疾患別看護

- ・小児看護
- ・認知症看護
- ・難病看護
- ・エンドオブライフケア

医療的ケア児・障害児の連携の実際

病院 (リハビリ機関)	・相談員
行政	・PHN
生活介護	・ショートステイ
児童発達支援	・親、兄弟
学校	・児童相談所
福祉用具(補装具)	



「行政の立場から」
 山口市健康福祉部長 (兼) 山口市福祉事務所長 有田稔子氏
 切れ目のない支援体制を目指し、医療と介護・地域を繋ぐた
 めの行政保健師の役割、医療・介護連携事業における取組み
 について、知ることができました。



生活支援・介護予防への取組み

- ・地域の介護予防推進に向けた取組み
 - 介護予防出張講座-地域介護予防活動グループ支援事業
 - 地域のリハビリテーション活動支援
 - 地域包括支援センター、通所・訪問サービスを対象に
リハビリ専門職による自立支援に向けた指導助言
 - 住民主体の介護予防の集いの場づくり
 - いきいき百歳体健(住民主体の運営)等の普及・活動支援
- ・リハビリ課、保健師、看護師等の専門職を地域に派遣

生活支援・介護予防への取組み

- ・地域の介護予防推進に向けた取組み
- 【リハビリを介護・地域をつなぐ仕組みづくり】
- ・リハビリ専門職の派遣体制の整備
市への出向体制 → 出張巡回・介護サービス事業
所からの派遣体制
- ・病院リハビリ専門職と地域包括支援センター等との協議
の場の創設
- ・いきいき百歳体健等を支援する担い手の養成
介護予防・生活支援リーダーの養成
- ・社会資源の創出とマッチング機能を持つコーディネーター
の設置
地域の介護予防の場づくりへの支援等

3 職能合同という事で、大変盛大な職能集会でした。シンポジウムでは、「認知症看護に関わる
 立場から」「新生児・小児看護に関わる立場から」「訪問看護の立場から」「行政の立場から」
 と 4 人のシンポジストから現状や課題を聞くことにより、地域との連携の必要性が良くわかり
 ました。

今後の助産実践能力向上研修予定

- 12/15 助産倫理、産科医療補償制度
- H31/1/26 災害時における助産体制の整備

H31/2/17 超音波画像診断装置の基本操作と手順

皆様のご参加、お待ちしております。

山口県看護協会

助産師職能委員会

